

2022 年卒
Vol.09

7月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2022 学生モニター調査結果 (2021 年 7 月発行)

2022 年卒業予定者の採用面接が 6 月 1 日に正式に解禁されてから 1 カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は前年実績を超えたものの、コロナ前の 20 年卒を下回ったことがわかった。

前年同時期調査との比較や、先月調査（6 月調査）からの変化に着目して分析したい。

1. 7月1日現在の内定状況

- 内定率は 80.1%。コロナ前の 2020 年卒 (84.0%) を 3.9 ポイント下回った
- 就職活動終了者は全体の 67.4%。継続者は 32.6%

2. 7月1日現在の就職活動量

- 企業セミナー参加社数は前年より 2 社以上増加 (13.9 社→16.1 社)
- ES 提出 16.4 社、筆記試験 11.4 社、面接試験 9.2 社。活動量は増加

3. 動画選考・WEB 面接の受験状況

- 受験経験者は前年よりさらに増加。「WEB 面接」は 97.9%が経験
- 「WEB 面接」に肯定的な学生は 9 割超 (93.0%)。「自己 PR 動画」「録画面接」は反対派が多数

4. 就職活動継続学生の動向

- 選考中企業 2.0 社、これから受験予定 1.6 社。前年・前々年を下回る
- 今後の方針「新たな企業を探して幅を広げる」が 6 月より大きく増加 (27.7%→36.1%)

5. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多に
- 就職活動開始当初からの第一志望に決めたのは 37.0%

6. 就職決定企業の内定者集合

- 調査時点で「内定者集合あった」32.3%。オンラインでの実施が 8 割超 (81.9%)

7. ここまでの就職活動を振り返って

- 「学業と無理なく両立できた」62.8%、「業界研究や企業研究に十分な時間をとれた」61.6%

8. 就職環境への考え（売り手市場の実感）

- 売り手市場だと感じる学生は全体の 2 割強 (24.6%)。コロナ前 (2020 年卒、49.7%) の半数

9. WEB テストの不正受験について

- 「不正受験ができない仕組みにして、公正に評価してほしい」48.2%

調査概要

- 調査対象 : 2022 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
 回答者数 : 1,200 人 (文系男子 391 人、文系女子 342 人、理系男子 337 人、理系女子 130 人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2021 年 7 月 1 日~5 日
 サンプルング : キャリタス就活 2022 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は80.1%で、前年実績(77.7%)を上回った。ただ、先月は前年同期との差は7.8ポイントあったが、この1カ月間の伸びは鈍く、2.4ポイント差まで縮まった。7月の内定率としては2年ぶりに8割台を回復したものの、新型コロナの影響がなかった2020年卒(84.0%)を下回った。

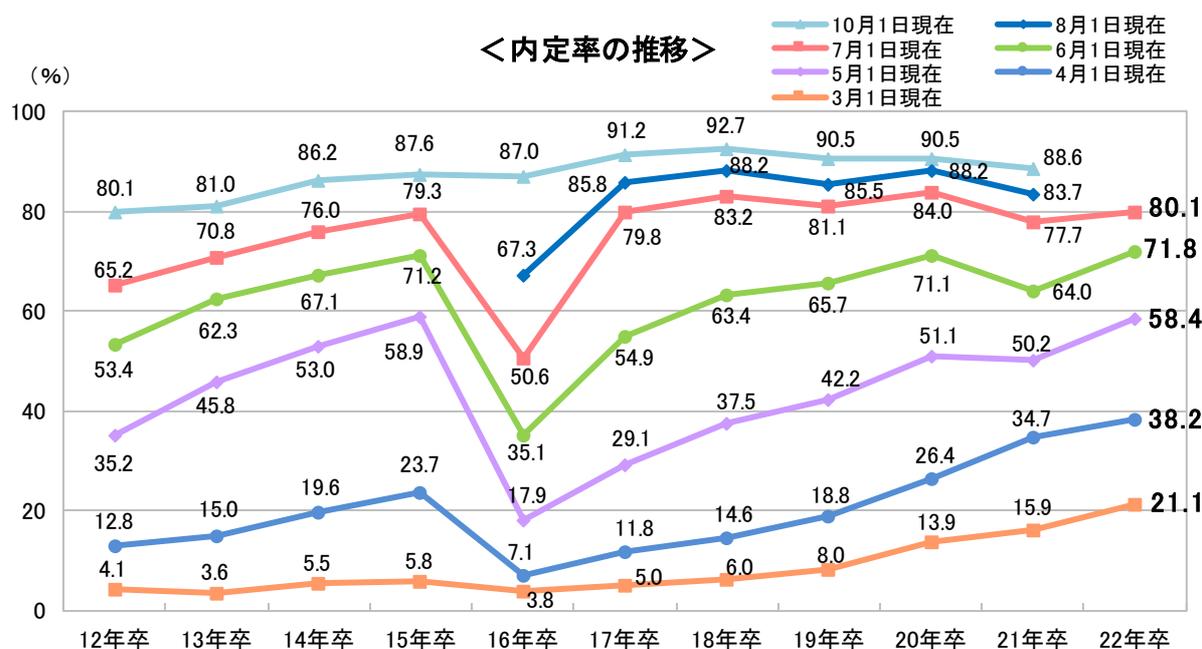
内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは79.8%。6月調査では60.0%だったので、20ポイント近く増加した。本命企業の選考結果が出たことで活動を終える学生が増えたと見られる。

なお、内定取得学生の多くが複数の企業から内定を得ており、内定社数の平均は2.3社に上る。

<7月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		80.1 (77.7)	76.5 (71.0)	84.5 (81.2)	79.5 (79.9)	80.8 (82.4)
内定なし		19.9 (22.3)	23.5 (29.0)	15.5 (18.8)	20.5 (20.1)	19.2 (17.6)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	79.8 (74.2)	72.2 (66.7)	74.4 (70.7)	90.7 (82.1)	88.6 (82.1)
	活動は終了したが複数内定保持	3.9 (5.0)	4.3 (5.4)	5.2 (6.8)	2.2 (2.6)	2.9 (5.4)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.5 (0.7)	0.3 (0.4)	0.0 (1.0)	1.5 (1.1)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	15.8 (20.1)	23.1 (27.5)	20.4 (21.4)	5.6 (14.2)	8.6 (12.5)
		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.0)	2.4 (2.0)	2.4 (2.1)	2.1 (2.0)	1.9 (1.9)

※ () 内は前年(7月1日現在)の数値

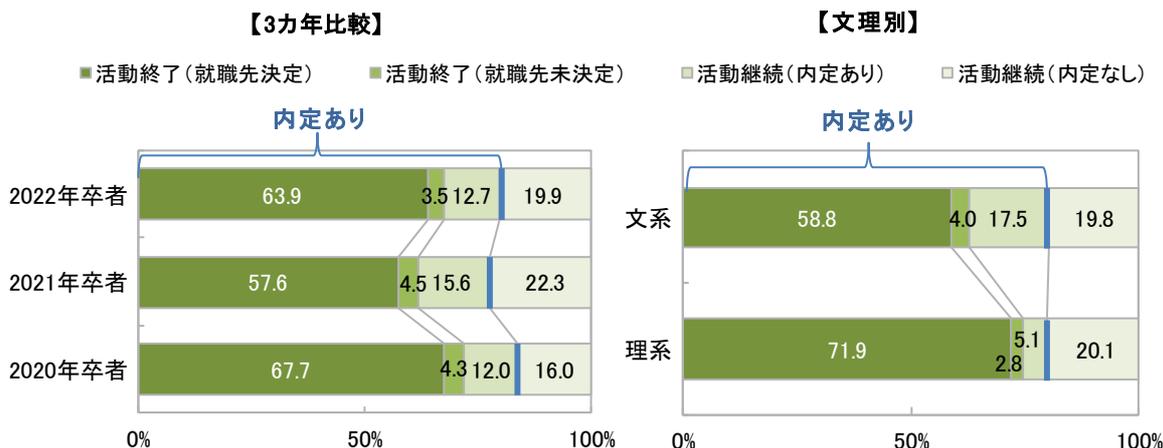


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~22卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

モニター学生全員を分母にして活動状況を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 63.9%。複数内定を保留しているなど就職先未決定である者 (3.5%) を合わせると、終了者は 67.4%。活動継続者は「内定あり」(12.7%)、「内定なし」(19.9%) を合わせて 32.6%。

文理別に見ると、文系は内定保持者も含め 4 割近く (計 37.3%) が継続中と回答。先月調査 (計 60.5%) より 20 ポイント以上減少したものの、理系に比べ継続率が依然高い。

< 活動状況の分布 >



2. 7月1日現在の就職活動量

7月1日現在の就職活動量 (活動社数) を表にまとめた。

これまでの一人あたりのエントリー社数の平均は29.1社で、前年と同水準。一方、企業セミナーの参加社数は前年より2社以上増加した (13.9社→16.1社)。オンラインでの開催が主流となったことで、参加のハードルが下がったことが背景にあると見られる。

選考試験の社数についても見てみると、エントリーシート提出社数は前年より約1社増えて16.4社。コロナ禍により就職環境が厳しくなると見て、提出社数を増やした学生もいるだろう。筆記試験、グループディスカッション、面接試験もそれぞれ前年より増加した。ここ数年、志望企業を絞り込んで就職活動を進める傾向が続いてきたが、コロナ禍で歯止めがかかり、増加に転じたことが表れている。

< 7月1日現在の就職活動の状況 (活動社数) >

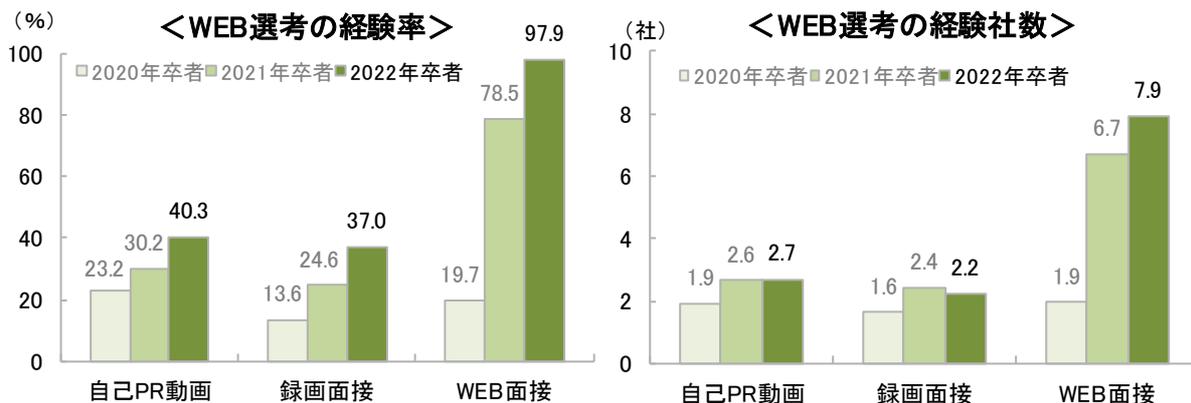
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー	29.1	29.2	35.2	34.5	17.3	25.4
企業単独開催セミナー参加	16.1	13.9	17.5	20.9	10.3	13.5
エントリーシート提出	16.4	15.5	19.6	18.5	11.1	14.3
筆記・適性テスト受験	11.4	10.7	13.9	12.3	8.0	10.1
グループディスカッション受験	3.0	2.3	3.5	2.8	2.5	2.2
面接試験受験	9.2	8.4	11.1	10.4	6.4	7.5
うち、最終面接	2.9	2.6	3.0	3.1	2.5	2.7

※それぞれ経験者を分母に平均社数を算出。(最終面接社数は、面接試験を受けた者を分母に再集計)
※オンライン形式も含む

3. 動画選考・WEB 面接の受験状況

WEB 選考 (自己 PR 動画、録画面接、WEB 面接) の受験経験について尋ねた。いずれも前年の経験率を上回ったが、中でも「WEB 面接」の経験率は 97.9% と極めて高い数値を示した。「自己 PR 動画 (動画 ES)」「録画面接」の経験率は約 4 割で、WEB 面接に比べると少ないが、3 カ年で着実に拡大している。

それぞれについての賛否を尋ねたところ、「WEB 面接」は 9 割を超える学生が賛成と回答 (計 93.0%) したのに対し、「自己 PR 動画」は 3 割強 (計 34.6%)、「録画面接」は賛成が 3 割弱 (計 27.6%) にとどまる。企業側と双方向のコミュニケーションが取れない点や、撮影の手間など負担が大きい点が、反対する理由として挙げられた。



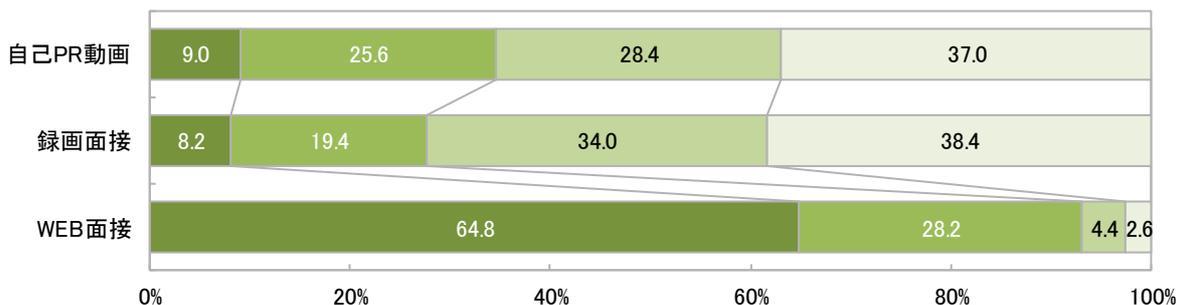
※「自己 PR 動画」=1 分程度で自己 PR などを録画し、提出するもの。

「録画面接」=PC やスマートフォンで、あらかじめ設定された質問にオンデマンドで答えるもの。

「WEB 面接」=インターネット経由で実施するライブ面接。オンライン面接。双方向のもの。

<採用選考に動画やWEBを用いることへの考え>

■ 賛成 (積極的に活用したい) ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 □ 反対 (利用したくない)



■採用選考に動画やWEBを用いることへの考え

○WEB 面接は移動費などのコスト面を考えると非常にありがたかった。地方の企業など幅広く検討することができた。 <理系男子>

○面接が WEB であることには賛成。交通費がかからないし、緊張の度合いも異なる。 <文系女子>

○自己 PR 動画は、多くが録画回数や時間に制限があり、準備に手間がかかり負担が大きい。 <理系女子>

○選考過程は学生が会社とのマッチングを見る機会でもあると思うので、学生が一人で話して終わる動画選考にはどちらかといえば反対です。 <文系女子>

○録画面接は一方通行なやりとりなので好きではない。やりづらい。 <文系男子>

○WEB 面接は選考の初期段階やインターンなどはいいと思う。しかし、自分の熱意を伝えることや会社 (面接官) の雰囲気を知るには WEB は不十分。 <理系女子>

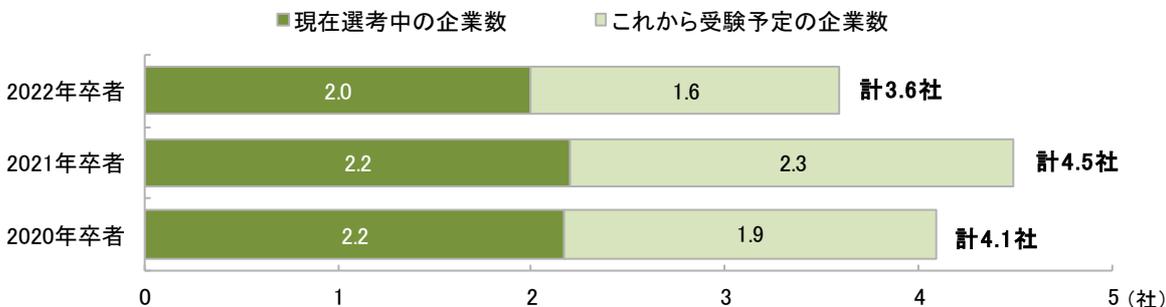
4. 就職活動継続学生の動向

内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生（モニター全体の32.6%）の、現在選考中の企業数は平均2.0社。これから受験予定の企業数1.6社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は3.6社。採用活動の中断などで選考が後れていた前年だけでなく、2020年卒者に比べても少ない。

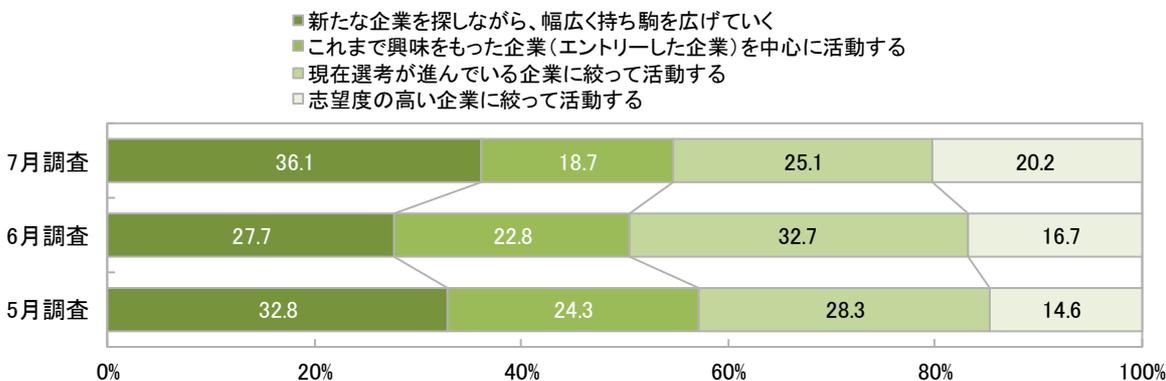
そこで、今後の方針・戦略について尋ねると、6月調査では「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が3割超え最も多かったが、7月は2割台に減少。代わりに「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が大きく増えた（27.7%→36.1%）。

また、持ち駒企業を増やすために見直すこととして、4割を超える学生が「志望業界の見直し」（41.9%）と回答するなど、選考がうまく進まない中で、視野を広げて仕切り直そうとする動きが目立つ。

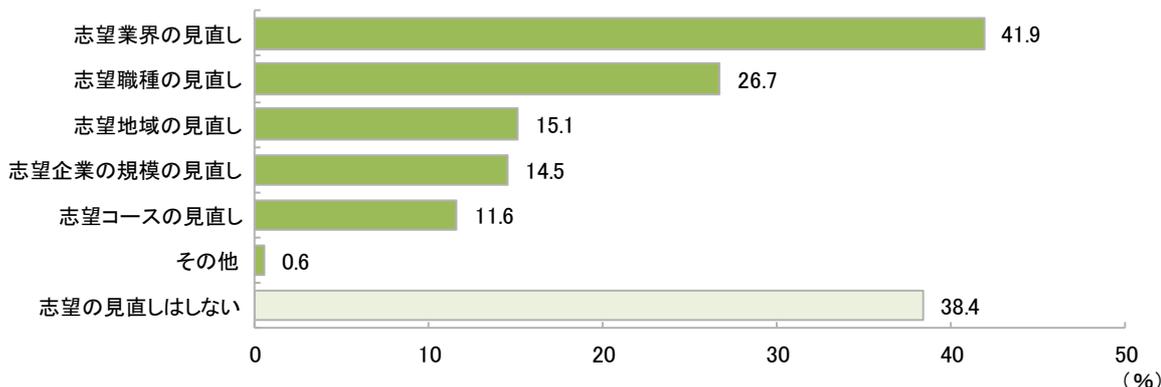
＜7月時点の持ち駒企業数＞



＜今後の就職活動の方針・戦略＞

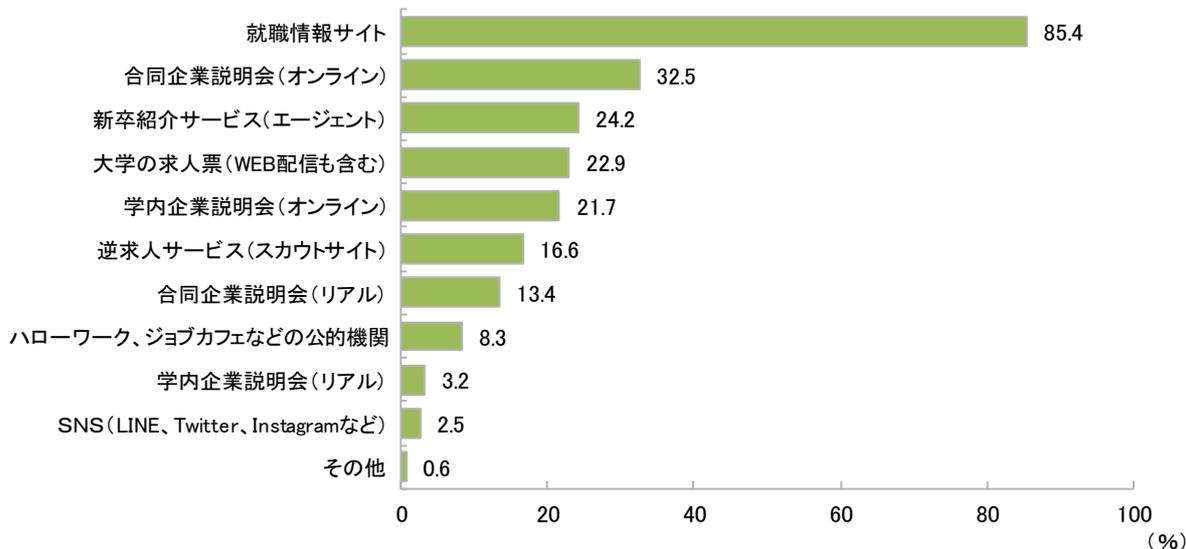


＜持ち駒企業を増やすために見直すこと＞



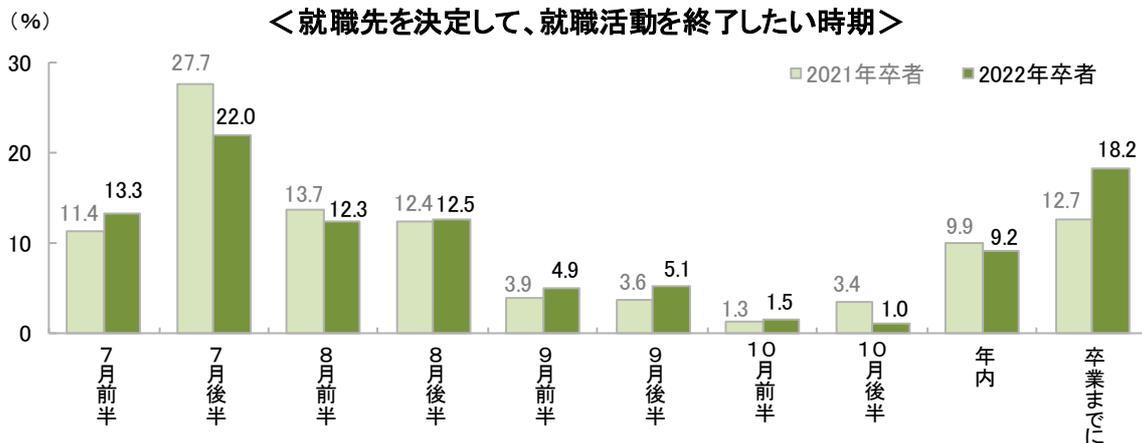
新たな企業を探す手段(ツール)は、「就職情報サイト」が8割を超え(85.4%)、後半戦を迎えても圧倒的に高い。これに「合同企業説明会(オンライン)」、「新卒紹介サービス」、「大学の求人票」が続く。オンラインを中心に様々なツールを活用して、自分に合う企業を積極的に見つけ出そうとする姿勢がうかがえる。

<新たな企業を探す手段>



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねた。前年調査と同様に「7月後半」が最も多いものの約5ポイント減り(27.7%→22.0%)、代わりに「卒業までに」が増えた(12.7%→18.2%)。夏のうちに決めたいという学生は過半数に達するが(8月まで 計60.1%)、9月以降の長期戦を覚悟する学生も少なくない。

<就職先を決定して、就職活動を終了したい時期>



■就職活動継続学生の声

○たとえ就活が長期戦になったとしても、この時期に得られた教訓は必ず今後の人生の糧になると信じています。

<文系男子>

○一次面接すら通ったことがないが、志望業界を最近変えたのと、会社側に見る目がないと思って前向きに数を受けていくつもりである。

<理系男子>

○今まであまり行動できていなかったけど、今月内定とるぞ!!

<文系男子>

○早く内定を決めて、勉強に集中したいです。

<理系女子>

○周りに流されず自分の軸をしっかりとってやりたい。

<文系女子>

5. 就職決定企業の属性

就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 63.9%）の就職決定企業について確認したい。まず、就職決定企業の業界を文理別に見てみる。文系の 1 位は「情報処理・ソフトウェア」、2 位は「銀行」と昨年と同順位。3 位の「商社（専門）」は昨年 10 位から大きく上昇。4 位には昨年 8 位だった「運輸・倉庫」が入った。理系は 1 位「情報処理・ソフトウェア」と 2 位「電子・電機」の順位が昨年と入れ替わったが、大きな変動は見られず、「建設・住宅・不動産」までの 3 業界で 3 割強を占める（計 36.9%）。

今年は文理とも 1 位が「情報処理・ソフトウェア」となり、IT 業界の人気の高さが際立つ。

<文系>

	2021年卒者	%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	17.3
2位	銀行	11.2
3位	建設・住宅・不動産	7.9
4位	情報・インターネットサービス	5.4
5位	調査・コンサルタント	4.1
	保険	4.1
7位	人材サービス・人材紹介・人材派遣	3.6
8位	電子・電機	3.3
	運輸・倉庫	3.3
10位	商社（専門）	3.1
	マスコミ	3.1

<理系>

	2022年卒者	%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.8
2位	銀行	9.5
3位	商社（専門）	6.0
4位	運輸・倉庫	5.1
5位	保険	4.4
6位	建設・住宅・不動産	4.2
	その他サービス	4.2
9位	電子・電機	3.7
	人材サービス・人材紹介・人材派遣	3.7

	2021年卒者	%
1位	電子・電機	12.9
2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.7
3位	建設・住宅・不動産	11.0
4位	自動車・輸送用機器	7.3
5位	情報・インターネットサービス	6.6
	医薬品・医療関連・化粧品	6.6
7位	機械・プラントエンジニアリング	6.3
8位	素材・化学	5.4
9位	水産・食品	4.4
10位	通信関連	3.5

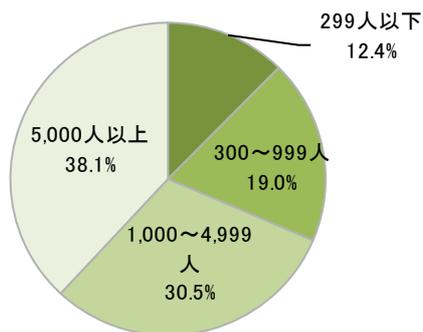
	2022年卒者	%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.4
2位	電子・電機	11.9
3位	建設・住宅・不動産	11.6
4位	素材・化学	6.8
	機械・プラントエンジニアリング	6.8
6位	医薬品・医療関連・化粧品	5.4
7位	自動車・輸送用機器	5.1
8位	エネルギー	4.8
9位	調査・コンサルタント	3.6
	通信関連	3.6

※上位10業界を掲載
※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

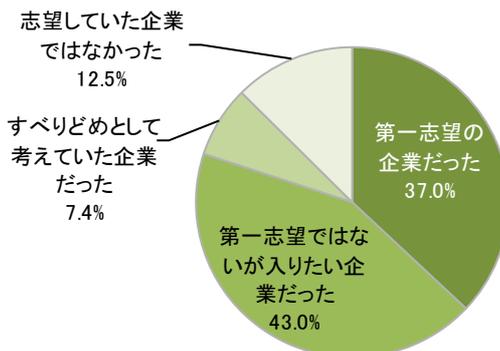
次に、就職決定企業の従業員規模の比率を見てみたい。従業員 1,000 人以上の企業に決めた学生を合計すると約 7 割に上り（計 68.6%）、大手企業に決める学生が大半を占める。

また、就職決定企業の就職活動開始当初の志望状況を尋ねたところ、「第一志望の企業だった」は 37.0%。「第一志望ではないが入りたい企業だった」（43.0%）を合わせると、当初から希望していた企業に就職を決めた学生は 8 割に上る。現時点で就職先を決定した学生の多くは、満足のうちに就職活動を終了したものと見られる。

<就職決定企業の従業員>



<就職活動開始当初の志望状況>



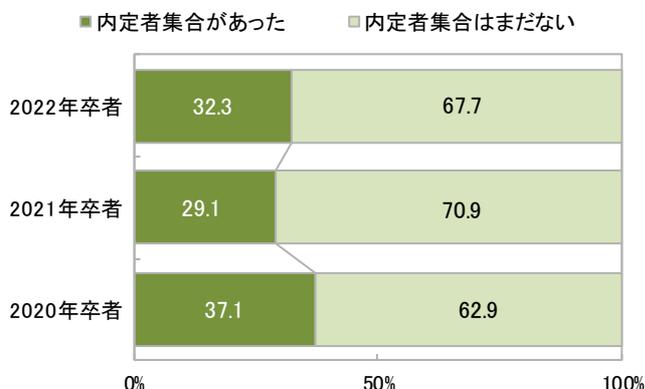
6. 就職決定企業の内定者集合

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、内定者集合について尋ねた。

調査時点で「内定者集合があった」という回答は3割強 (32.3%)。コロナ禍による採用活動中断の影響で内定時期が遅れた前年 (29.1%) をやや上回るが、コロナ前の20年卒調査 (37.1%) に比べるとまだ実施は少ない。対面で開催できる時期を見計らって実施に至っていないケースもあると見られる。

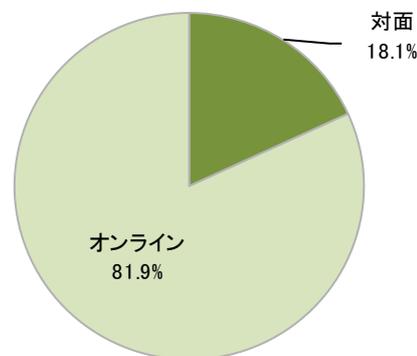
形式はオンラインが中心で、8割を超える (81.9%)。参加した学生からは、オンラインであっても、社員との懇談を通して社風を感じ取ることができたといった声や、内定者同士でゲームなどのレクリエーションを通して親交を深めた様子が多数報告された。

＜就職決定企業の内定者集合の有無＞



※各年7月調査

＜内定者集合の形式＞



■内定者集合の内容

- 事業内容の理解を深めつつ、内定者同士が会話を通じて仲を深められるようなオンラインゲームを行うというもの。また、お菓子や飲み物を持ち寄るオンラインティータイムも設けられていた。 <運輸/WEB>
- 会社についての紹介や、クイズ、合格者同士の懇談があった。 <商社/WEB>
- 内定者同士の顔合わせを行いました。人事の方を交えてグループに分かれ、少人数での話し合いを、人を入れ替えて何回か行いました。昼食にお弁当を自宅まで配達していただき、話しながら食べました。 <IT/WEB>
- 内定者と社員さんを含めた懇親会が行われた。ブレイクアウトルームに分かれ、少人数で話すことができた。 <金融/WEB>
- 複数の職種の内定者がオンライン上で集まる80分間のイベント。内定者同士で雑談をして交流した後、同職種の先輩社員との座談会で仕事内容などの話を聞いた。 <製造/WEB>
- Zoomで内々定者限定のオンライン飲み会。2月から6月まで毎月開催されていた。 <IT/WEB>
- 内定者懇親会として、自己紹介スライドを各自用意し、グループのメンバーに発表した。 <サービス業/WEB>
- 今後のスケジュール説明と、コロナ感染対策を十分に会社の会議室での内定者懇親会。 <サービス業/対面>
- 近畿地区の内定者懇親会。時間は2時間で、1テーブル5人のグループで謎解きゲームやクイズ大会を行った。少しではあるが、社会人としての心構えや「仕事とは何か」など真面目なお話もあった。 <金融/対面>
- 内定書類の受け取りがあり、その場で内定者複数人と会う機会があった。自己紹介をする時間があつた。 <建設・不動産/対面>

※<決定企業の業界/形式>

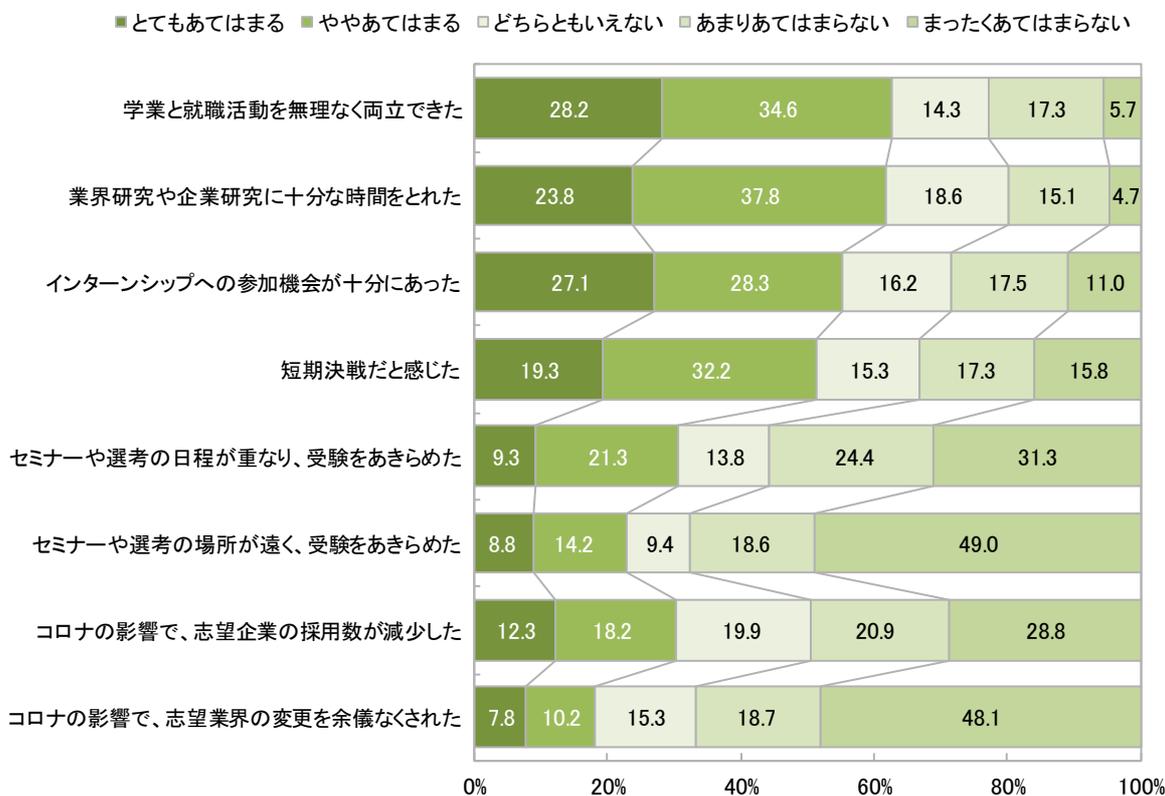
7. ここまでの就職活動を振り返って

ここまでの就職活動を様々な角度から振り返ってもらった。「あてはまる」という回答が最も多いのは「学業と就職活動を無理なく両立できた」で、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて6割を超える(計62.8%)。オンライン中心の活動で、両立がしやすくなっているのだろう。

次いで「業界研究や企業研究に十分な時間をとれた」(計61.6%)、「インターンシップへの参加機会が十分にあった」(計55.4%)と続く。インターンシップ等のプログラムへの参加を通して、早くから業界研究や企業研究を進めていた学生が多いことが見て取れる。

一方、「セミナーや選考の場所が遠く、受験をあきらめた」や「セミナーや選考の日程が重なり、受験をあきらめた」は「あてはまる」と回答した学生は少なく(それぞれ計30.6%、計23.0%)、企業の採用活動がオンライン化したことで、気になる企業の受験機会を確保できたと感じる学生が多いようだ。

<ここまでの就職活動を振り返って>



■就職活動を振り返って思うこと

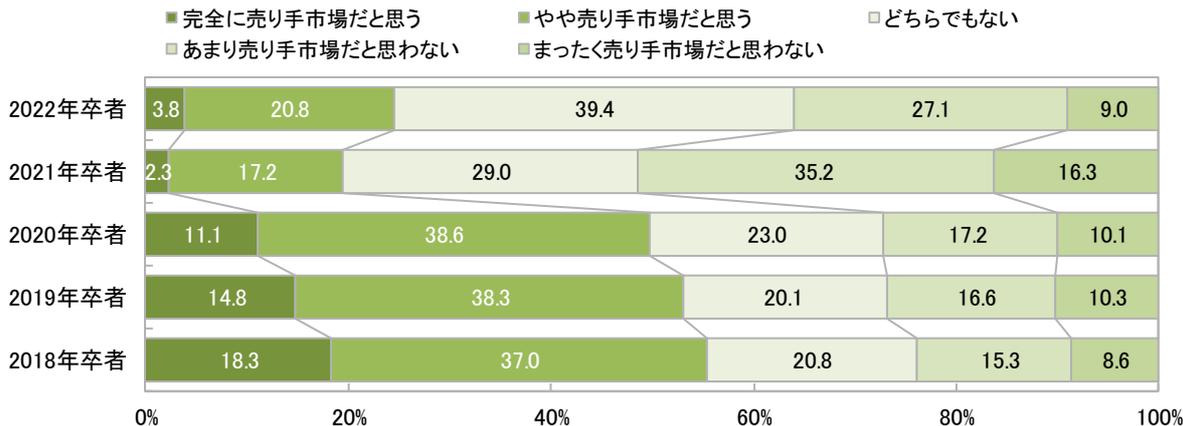
- オンライン化のおかげで研究の傍らで説明会などを受けることができた。 <理系男子>
- スタートダッシュが肝心であり、インターンシップの早期参加も非常に重要であると感じた。 <理系女子>
- オンラインが多かったことにより、複数の企業のインターンに連日参加できたり、面接を立て続けに受けることができたのは良い面だと感じた。 <文系女子>
- コロナ禍の前には想定していなかった業界を見ることになり、結果的に視野が広がった。 <理系男子>
- コロナの影響で自分から様々な情報を取りにいかない差が生まれる。就活に対して前向きに自分から動いていくことが大切であると感じた。 <文系男子>

8. 就職環境への考え (売り手市場の実感)

就職活動を通して、自分たちの就職環境をどう捉えているのかを全員に尋ねた。

「完全に売り手市場だと思う」「やや売り手市場だと思う」合わせると 24.6%。前年調査 (計 19.5%) より約 5 ポイント増えたものの、売り手市場だと感じる学生は限定的。2020 年卒以前は 5 割前後が「売り手市場だと思う」と回答しており、コロナ前に比べると厳しさがうかがえる。

＜就職環境への考え(売り手市場の実感)＞

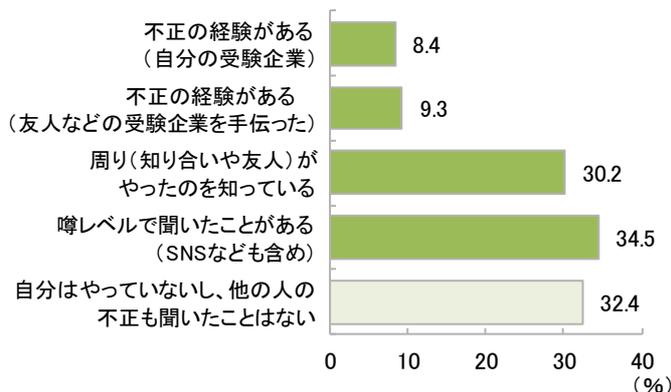


9. WEB テストの不正受験について

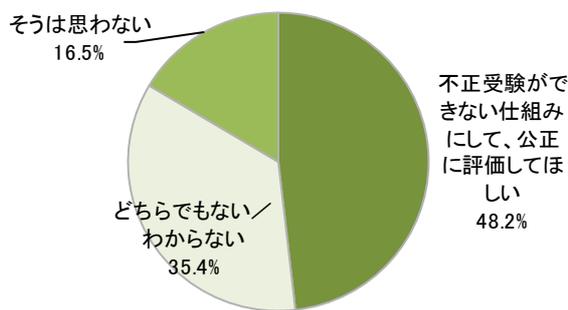
コロナ禍により筆記・適性テストのオンライン化も加速したが、カンニングや替え玉など不正受験の可能性が指摘されることもある。そこで WEB テストの不正について経験や考えを尋ねてみた。

自身が「不正の経験がある」という学生は少数だが、周囲や噂で耳にした経験を持つ学生はそれぞれ約 3 割。WEB テスト導入企業に対し「不正受験ができない仕組みにして、公正に評価してほしい」と考える学生が半数近くに上った。

＜WEBテストでの不正経験＞



＜WEBテスト導入企業への要望＞



■WEB テスト導入企業への要望

○仕事ではズルが通用しないのだから、試験でズルをした人間を採用しても企業は得をしないと思う。また、大学の入学試験があれだけ厳しいのに、企業の入社試験で不正ができるのはおかしい。 <文系女子>

○ひとりで就職活動をしていたため、テストの回答が出回っていることを知らず、実力で受験をした。情報収集能力等を見ているのでないならば、ぜひとも公平性を担保してほしい。 <理系男子>

○テクノロジーを駆使すれば十分に防げる以上、その努力はしてほしい。 <文系男子>